

製品名: NAB2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14386**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	56kDa

抗原情報

遺伝子名	NAB2
別名	NAB2; MADER; NGFI-A-binding protein 2; EGR-1-binding protein 2; Melanoma-associated delayed early response protein; Protein MADER
遺伝子 ID	4665.0
SwissProt ID	Q15742
免疫原	抗血清はヒト NAB2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 261-310

背景

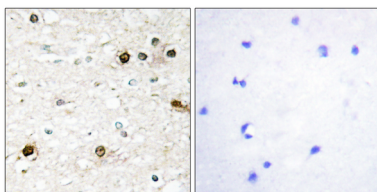
この遺伝子は、核内で機能し、EGR（早期成長応答）ファミリーの転写活性化因子の一部によって誘導される転写を抑制する NGFI-A

結合タンパク質 (NAB) ファミリーのメンバーをコードしています。NAB タンパク質は、保存された N 末端ドメインを介して他の EGR または NAB タンパク質とホモまたはヘテロ多量体を形成し、2つの部分的に重複した C 末端ドメインを介して転写を抑制します。コードされているタンパク質による転写抑制は、ヌクレオソームリモデリングおよび脱アセチル化酵素 (NuRD) 複合体との相互作用によって部分的に媒介されます。選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが報告されていますが、その生物学的妥当性は未だ確立されていません。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],ドメイン: NAB 保存ドメイン 1 (NCD1) は EGR1 阻害ドメインと相互作用し、多量体形成を媒介する。 ,ドメイン: NAB 保存ドメイン 2 (NCD2) は転写抑制に必須である。 ,機能: ジンクフィンガー転写因子 EGR1 および EGR2 の転写抑制因子として作用する。アイソフォーム 2 は抑制能を欠く。 ,誘導: 血清および PMA 刺激による。 ,類似性: NAB ファミリーに属する。 ,細胞内局在: アイソフォーム 2 は核に局在しない。 ,サブユニット: ホモ多量体は DNA に結合した EGR1 と会合する可能性がある。 ,組織特異性: 低レベルで広く発現している。メラノーマ細胞株で高発現する。 ,

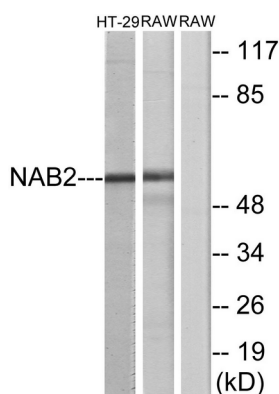
研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達; 転写; 補因子; 神経科学; 神経プロセス; 神経発生

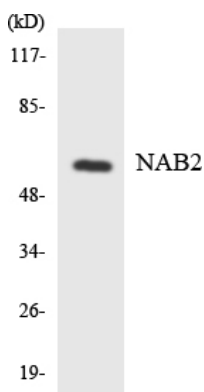
画像データ



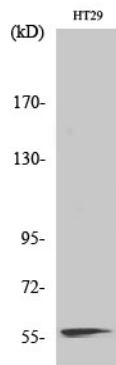
NAB2 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



NAB2 抗体を用いた HT-29 細胞および RAW264.7 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



NAB2 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



1: 1000 に希釈した NAB2 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウエスタンブロット分析。